

指定管理者制度導入施設評価票

評価対象年度	令和5年度		
施設名	秋田県点字図書館	設置年	昭和 47 年
所在地	秋田市土崎港南3丁目2-58		
指定管理者	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
県所管課	障害福祉 課	地域生活支援 チーム	

1 施設の概要

設置目的	「視覚障害者情報提供施設」として目の不自由な方々のために点訳図書(活字図書を点字にしたもの)、音訳図書(音声をテープに録音したもの)、デージー図書(音声をCDに録音・編集したもの)などを備え、図書貸出等の情報提供を行う					
県の施策上の施設の位置付け	新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における施設の位置付け・目標 障害者の暮らしを支える体制の強化					
	新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における目標を達成するための取組として施設に求められているもの 「視覚障害者情報提供施設」として目の不自由な方々のために点訳図書(活字図書を点字にしたもの)、音訳図書(音声をテープに録音したもの)、デージー図書(音声をCDに録音・編集したもの)などを備え、図書貸出等の情報提供を行う					
施設の面積	1,020.43㎡					
主な設置施設	秋田県点字図書館					
指定管理業務の内容	料金制	無（指定管理料制）				
	料金設定					
	サウンディング実施対象施設※					
	指定期間	R3.4.1 ～ R8.3.31				
	営業期間・時間	8:30～17:00(第1・第3・第5土曜日は12:00まで)				
	①点訳・音訳・デージー図書の貸出・閲覧 ②点訳・音訳・デージー図書の製作・編集 ③図書製作ボランティアの養成 ④目の不自由な方々への総合的な情報提供					
自主事業の内容	①デージー図書再生専用機(プレクストーク)の貸出 ②毎日のニュースを点字新聞やメールマガジンで配信 ③電話で1週間分の新聞から希望する記事を読み上げるテレフォンニュースサービス(毎週月曜日10:00～12:00)					
直近3年の年間利用者数	R3	17,731 人	R4	15,433 人	R5	15,420 人
直近3年の年間利用収入	R3	千円	R4	千円	R5	千円
直近5年の収支決算(単位:千円)		R元	R2	R3	R4	R5
収入 計		36,534	37,125	37,586	37,725	37,780
利用料金収入						
指定管理料		36,463	37,039	37,409	37,281	37,154
その他収入		71	86	177	444	626
支出 計		33,983	34,905	33,801	45,589	41,600
人件費		21,096	22,001	20,921	31,408	29,432
光熱水費		1,860	1,888	2,104	2,594	2,421
修繕費		408	557	660	1,047	693
外部委託費		1,522	1,464	1,483	1,545	1,435
その他経費		9,097	8,995	8,633	8,995	7,619
差 引		2,551	2,220	3,785	▲ 7,864	▲ 3,820

※単年度維持管理・運営費が1億円以上の公募施設について、民間事業者の意見を参考に運営手法や公募要件を検討するため、指定期間終了の3年前にサウンディング(官民対話)を実施する。

2 観点ごとの評価

＜観点Ⅰ＞ 施設の設置目的（施設の目指す姿）の達成に関する取組

【ポイント】

施設の設置目的(施設の目指す姿)を達成するための取組がなされ、その効果があったか。

○指定期間における運営方針・施設の利用目標

(R6年度以降に指定管理を開始・更新する施設から基本協定書に定めることとなっているため、それまでは記載不要)

○目標の設定(毎年度、県と指定管理者が協議の上、業務計画書に定める目標)

令和5年度 の目標	図書貸出件数 15,433件
--------------	----------------

○指定管理者による実績報告

令和5年度 の実績	実績	15,420	達成率	99.9%	
	具体的な 取組と その効果	新聞、ラジオやテレビの取材を通してPRを行った。 南秋地域・大仙地域の市町村や社会福祉協議会及び教育委員会等を訪問し、広報活動を行った。 コロナ感染症の5類移行を受けて利用者の活動が多様化したことにより、余暇活動が読書以外に拡大したと思われる。			
直近3年 の実績	年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	目標	17,041	17,646	17,731	
	実績	17,646	17,731	15,433	
	達成率	103.6%	100.5%	87.0%	
令和6年度 の目標 (設定根拠)	目標	図書貸出件数 15,420件			
	設定根拠	新型コロナウイルスが2類相当から5類相当に移行したことにより、利用者の日常も通常に戻りつつあり、読書以外の活動も活発化していくと思われるが、広報活動を通して読書意欲を維持していくということで前年度実績を目標とする。			

※指標が複数ある場合は欄を適宜追加すること。

＜観点Ⅰ＞の評価

評価 欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	B	
	県 (所管課)	B	

【評価基準】次の基準により評価。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。
また、施設の設置目的(施設の目指す姿)を達成するための、指定期間における運営方針・施設の利用目標について、指定期間開始年度から評価対象年度までの達成状況をコメント欄に記載すること。

A: 目標達成(数値目標の場合は100%以上)

B: A及びC以外

C: 目標達成に向けて改善が必要(数値目標の場合は80%未満)

＜観点Ⅱ＞ 施設の有効性（利用者の満足度）の向上に関する取組

【ポイント】

サービスの質を維持・向上するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

利用者満足度 令和5年度 の実績	実績	89.4%			
	具体的な 取組と その効果	・SDカードによる貸出を行うことにより、多く貸し出しを希望する方への対応を行うなど出来るだけ要望に対応した。 ・貸出においても利用者の状況に合わせて柔軟に対応した。			
利用者満足度 の状況 (直近3年)	R2年度	R3年度	R4年度		
	100.0%	100.0%	98.5%		

＜観点Ⅱ＞の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	A	
	県 (所管課)	A	

【評価基準】次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A:満足度80%以上 B:A及びC以外 C:満足度60%未満

＜観点Ⅲ＞ 効率性の向上等に関する取組

(1)経費の低減

【ポイント】

施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和5年度 の実績	経費の 低減実績	光熱費使用量に関しては、暖冬ではあったが夏の猛暑により増加した。利用料金は単価を下げたため減少した。
	具体的な 取組と その効果	光熱費使用量は猛暑の影響が大きく、全体で2.2%増加したが、使用料金は単価の減等により6.7%減少した。ほかに年次計画で照明のLED化を実施した。

※費用の総額では効果が計れない場合は、例えば利用者1人当たりの単価を算出する方法等も考えられる。

(2)収入の増加 ※指定管理料制施設を除く

【ポイント】

収入を増加するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和5年度 の実績	収入の 増加実績	
	具体的な 取組と その効果	

＜観点Ⅲ＞の評価

	評価者	評価	コメント
評価欄	指定管理者	A	
	県 (所管課)	A	

【評価基準】 次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A: (1)経費の低減、(2)収入の増加とも前年比で5%以上改善

B: A、C以外

C: (1)経費の低減、(2)収入の増加とも前年比で5%以上悪化

＜観点Ⅳ＞ 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組

【ポイント】

施設の管理運営（指定管理業務）の適切な実施に向けた具体的な取組がなされ、その効果があったか

○指定管理者による実績報告

令和5年度 の実績	○人員配置等 職員は法令等に則り、必要な資格を有する者が適切に配置されている。 職員の処遇も労働基準法等を遵守し、福利厚生等も適切に行っている。 ○職員の資質向上 業務に必要な研修への参加を行った。 ○安全対策 館内の清掃、消毒を定期的に行い、良好な施設環境を維持している。また、夜間等の警備も業者に委託することで対応している。建物、設備も不具合が生じた場合は、適宜対処しており、必要に応じて関係機関へ連絡、報告している。 ○危機管理等 消防計画を作成し、非常時の対応や連絡体制を整備している。また、避難訓練を年2回実施し防災意識の向上を図っている。
--------------	---

＜観点Ⅳ＞の評価

	評価者	評価	コメント
評価欄	指定管理者	B	
	県 (所管課)	B	

【評価基準】 A: 順調（改善点なし）、B: 概ね順調（重大な問題点なし）、C: 改善が必要（重大な問題点あり）

県(所管課)の評価においては、モニタリング結果を踏まえて評価を行う。

【県の施策達成に向けた県所管課の施設運営に対する考え方】

※全施設記載

○県の施策の達成状況(施設を運営することで、県の施策がどの程度達成されたか等)

県内唯一の視覚障害者への情報提供施設として、視覚障害者の日常生活支援に寄与している。

○施設運営の課題

施設の老朽化

○今後の方向性(県の施策の達成状況や課題を踏まえて、今後所管課としてどのように対応していくか等)

デジタル化が進む社会において、障害者団体とも協力し、視覚障害者への情報提供に努めていく。
施設の老朽化に関して、移転も視野に入れて検討していく。